

平成30年（行ウ）第184号 環境影響評価書確定通知取消等請求事件

原告 ■■■■■ 外11名

被告 国（処分行政庁 経済産業大臣）

証拠説明書（7）

令和2年5月7日

大阪地方裁判所 第2民事部合議1係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 池田 直樹

同 浅岡 美恵

同 和田 重太

同 金崎 正行

同 杉田 峻介

原告ら訴訟復代理人弁護士 喜多 啓公

同 與語 信也

同 青木 良和

頭書事件につき、下記のとおり証拠の説明をする。

記

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考	
甲 B 1 5 の 1	Ambient Air Pollution, A Global assessment of exposure and burden of disease, Summary	写し	2016 年	世界保健機構 (WHO)	WHO が PM2.5 を指標とした大気汚染が世界における環境要因の疾病に重大な影響を与えていることを報告した文書。世界で 300 万人が毎年大気汚染を原因として死亡しているとした。	
甲 B 1 5 の 2	大気汚染、暴露と疾病負荷についての世界的評価 要約	写し	同上	原告代理人	上記の翻訳 (15, 17 頁)	
甲 B 1 6 の 1	Powering Past Coal Coalition Declaration	写し	2017 年 11 月 16 日	P P C A	P P C A 結成時の宣言文書 https://poweringpastcoal.org/about/declaration	
甲 B 1 6 の 2	脱石炭連盟結成宣言	写し	同上	原告代理人	上記の翻訳	
甲 B 1 7 の 1	Review of evidence on health aspects of air pollution - REVIHAAP Project Technical Report (抄)	写し	2013 年 (月日不明)	WHO	粒子状物質 (PM) の健康への影響についての 2005 年ガイドライン以降の研究からの知見のまとめ。PM2.5 の健康への悪影響の証拠が積み重なっていること、循環器、呼吸器系以外の疾患にも影響しうること、PM2.5 と PM10 の影響が異なること、閾値がないことなど。	
甲 B 1 7 の 2	大気汚染の健康影響に関する証拠の検討～テクニカルレポート	写し	2020 年 4 月	原告代理人	上記の翻訳 (引用部分のみ)	
甲 B 1 8 の 1	Integrated Science Assessment for Particulate Matter (抄)	写し	2009. 12	EPA (米国環境庁)	EPA による PM2.5 の長期暴露評価、閾値があるとの証拠は乏しいとしていること。	
甲 B 1 8 の 2	PM2.5 の統合科学アセスメント	写し	2020 年 4 月	原告代理人	上記の翻訳 (引用部分のみ)	
甲 B 1 9	Global estimates	写し	2018. 9.	Burnett	16 か国、41 のコホートをも	

の 1	of mortality associated with long-term exposure to outdoor fine particulate matter		18	他	とにした PM2.5 への長期暴露と非事故死、虚血性心疾患等のハザード比に関する研究で、大気中の PM2.5 による健康影響が従来考えられていたよりもより深刻である可能性があること、長期暴露で $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 汚染があがるたびに 10%ハザード比が上昇する傾向があること。	
甲 B 1 9 の 2	大気中の PM2.5 への長期暴露と死亡との世界的な推計	写し	2020.4	原告代理人	上記の翻訳 (引用した部分のみ)	
甲 B 2 0 の 1	Japanese Nationwide Study on the Association Between Short-term Exposure to Particulate Matter and Mortality	写し	2018.1.22	道川武紘 他	PM2.5 への短期暴露と超過死亡についての全国調査、PM2.5 が $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 上昇すると総死亡率(事故以外)が 1.3%上昇する結果が得られたこと。	
甲 B 2 0 の 2	粒子状物質の短期暴露と死亡率との相関関係についての日本の広域的な研究	写し	2020.4	菊井順一	上記の翻訳	
甲 B 2 1	大気中微小粒子状物質の長期曝露が死亡に及ぼす影響—疫学研究における曝露と健康影響の評価に関する系統的レビューとメタ解析—	写し	2016	上田佳代 他	PM2.5 の長期暴露について $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 上昇することによる死亡のリスク比 1.07 (95% CI : 1.04, 1.09) であり、正の関連が認められたこと。	
甲 B 2 2	平成 25 年度 微小粒子状物質 (PM2.5) 二次生成粒子の挙動解明に関する文献調査報告書 (抄)	写し	2014.3	一般財団法人日本環境衛生センター	PM2.5 の二次生成が PM2.5 全体の 50% を超える (60% 間調査もある) こと。	

以上